

公開フォーラム

医薬品のリスクコミュニケーションの現状とこれから
患者への医薬品の安全性情報提供のあり方を考える

賢い患者を目指して27年間
歩んできた患者の立場から

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 山口 育子

認定NPO法人

ささえあい医療人権センターCOMLとは

- 1990年スタート、2002年NPO法人化、
2016年7月1日認定NPO法人認証
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す
一人ひとりが「いのちの主人公」
「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働 ⇒活動の目的
より良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

COMLの活動 (2017年10月末現在)

講演: 3806回

各種検討会・委員会

相談: 58495件

SP活動: 1470回 (OSCE388回)

病院探検隊: 85回

患者塾: 228回

患者と医療者のコミュニケーション講座: 93回 (出前16回)

医療をささえる市民養成講座 (2009年度～9期)

医薬品はマイナス情報が先行しがち



リスクが正しく伝わっていない現状

薬の不安で陥りやすい問題点

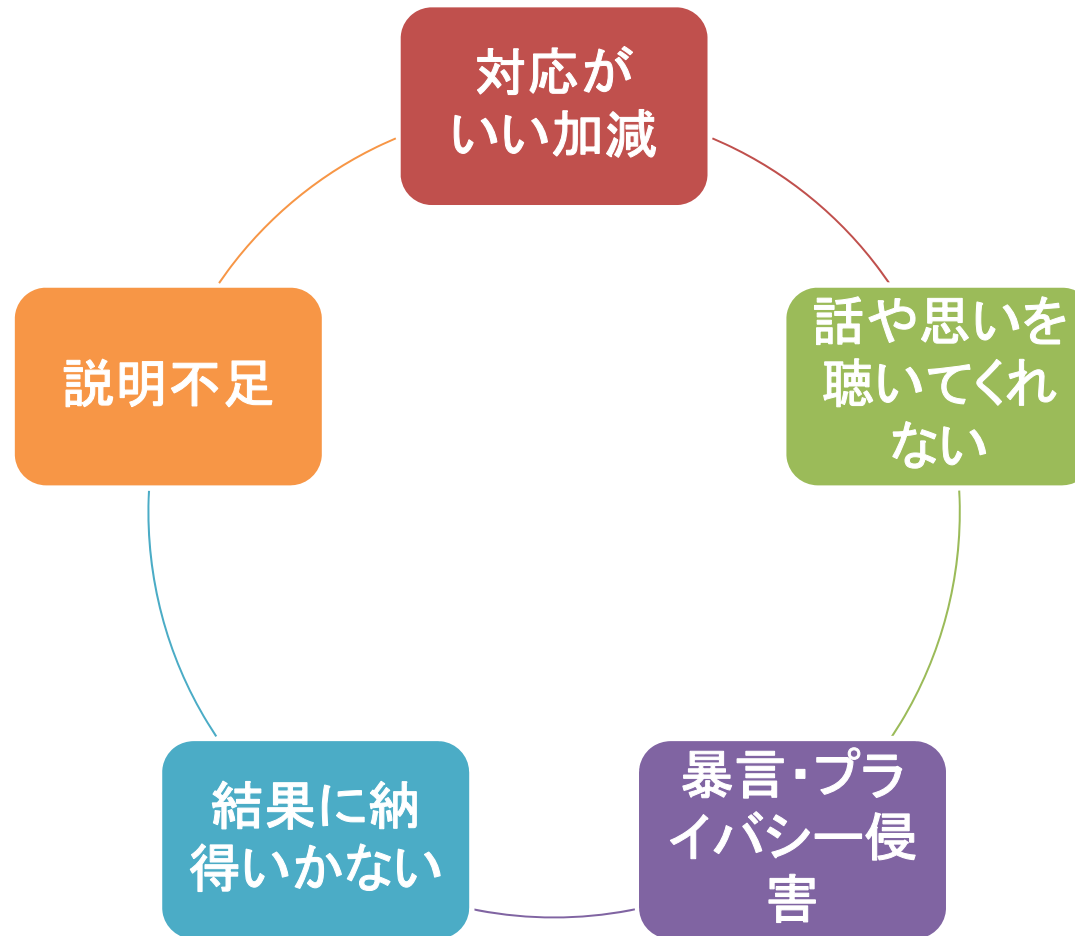
副作用への 過剰な心配

- 添付文書に羅列してあるだけで不安に
- 発現頻度の読み取り方がわからない

情報のリテ ラシー問題

- 「禁忌」「慎重投与」「重要な基本的注意」は「すべてダメ」
- 自分で調べようのないことも（相互作用など）

ドクターへの苦情



“説明不足”の真相は？

- インフォームド・コンセントの必要性
インフォームド・コンセントとは「説明すること」？
「ICを取る」？ 本来は患者の権利のはずなのに…

- 患者の自己決定重視
すべて伝える時代に
「『患者が決める時代だから』と丸投げされた」



詳しい専門的な説明を長時間かけて実施

一部しか理解
できない…

記憶に留まら
ない…

理解できなかったこと
＝「聞いていない」

インフォームド・コンセントの成熟



患者の課題①

「理解できていない」

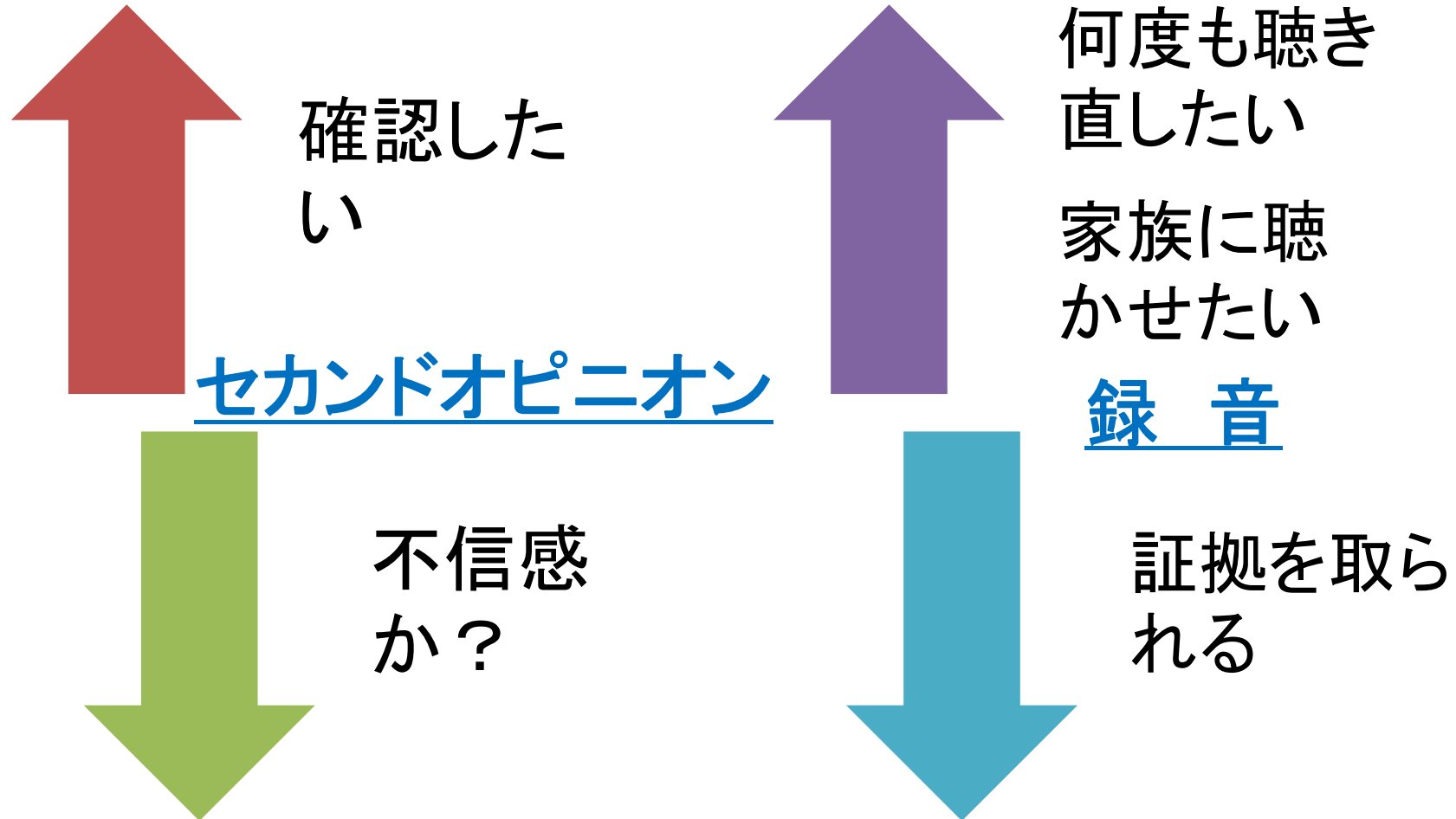
- 漠然と「わからない」「何がわからないかわからない」
- 専門用語や治療効果など前提となる基礎知識がない

- 理解できない理由の分析はできない
- 結果には不満足

- 「理解できていない」→「そんな説明聞いていない」
- 納得いかない結果は不信感に

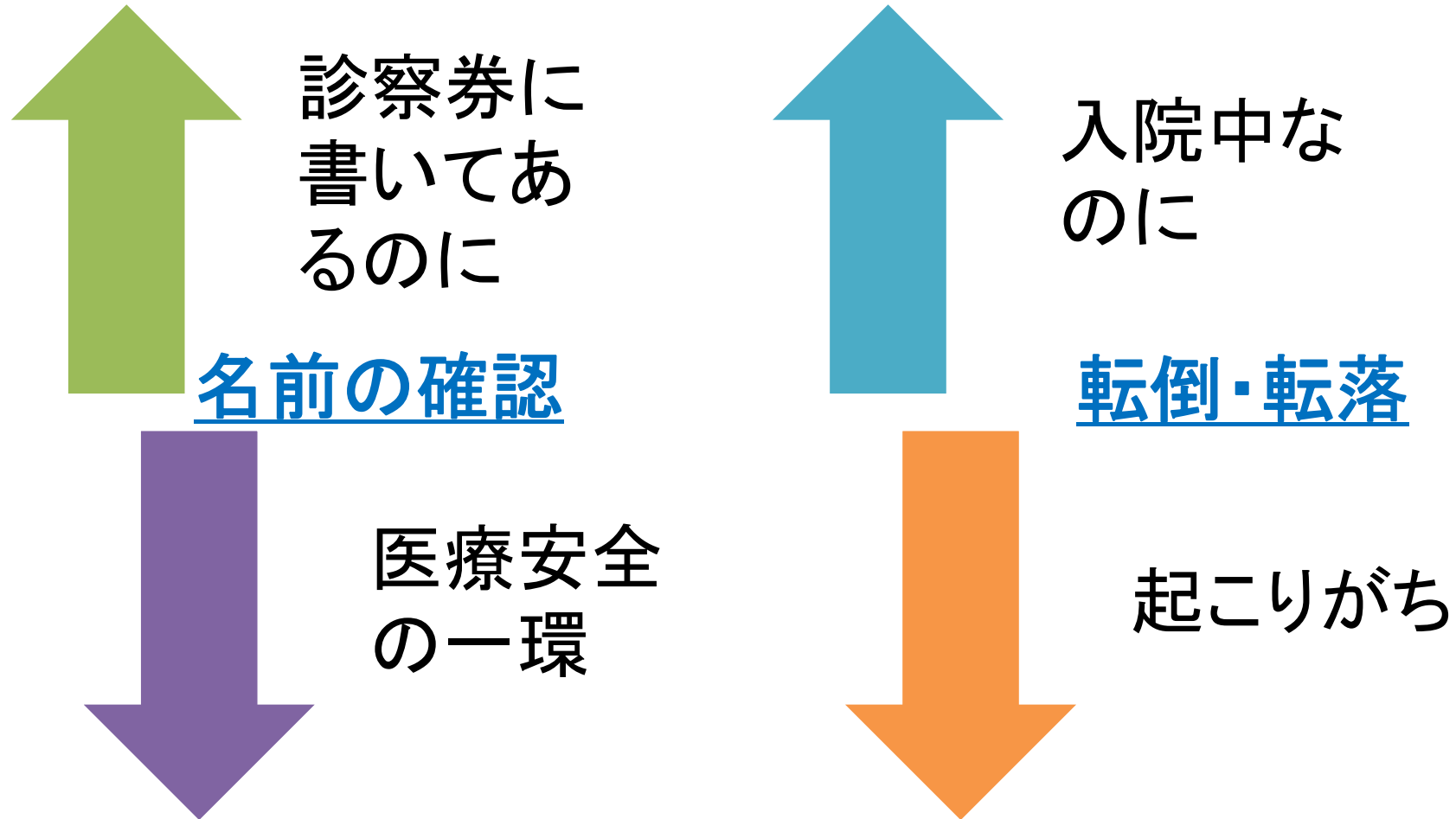
患者の課題②

患者と医療者の思いのズレ(その1)



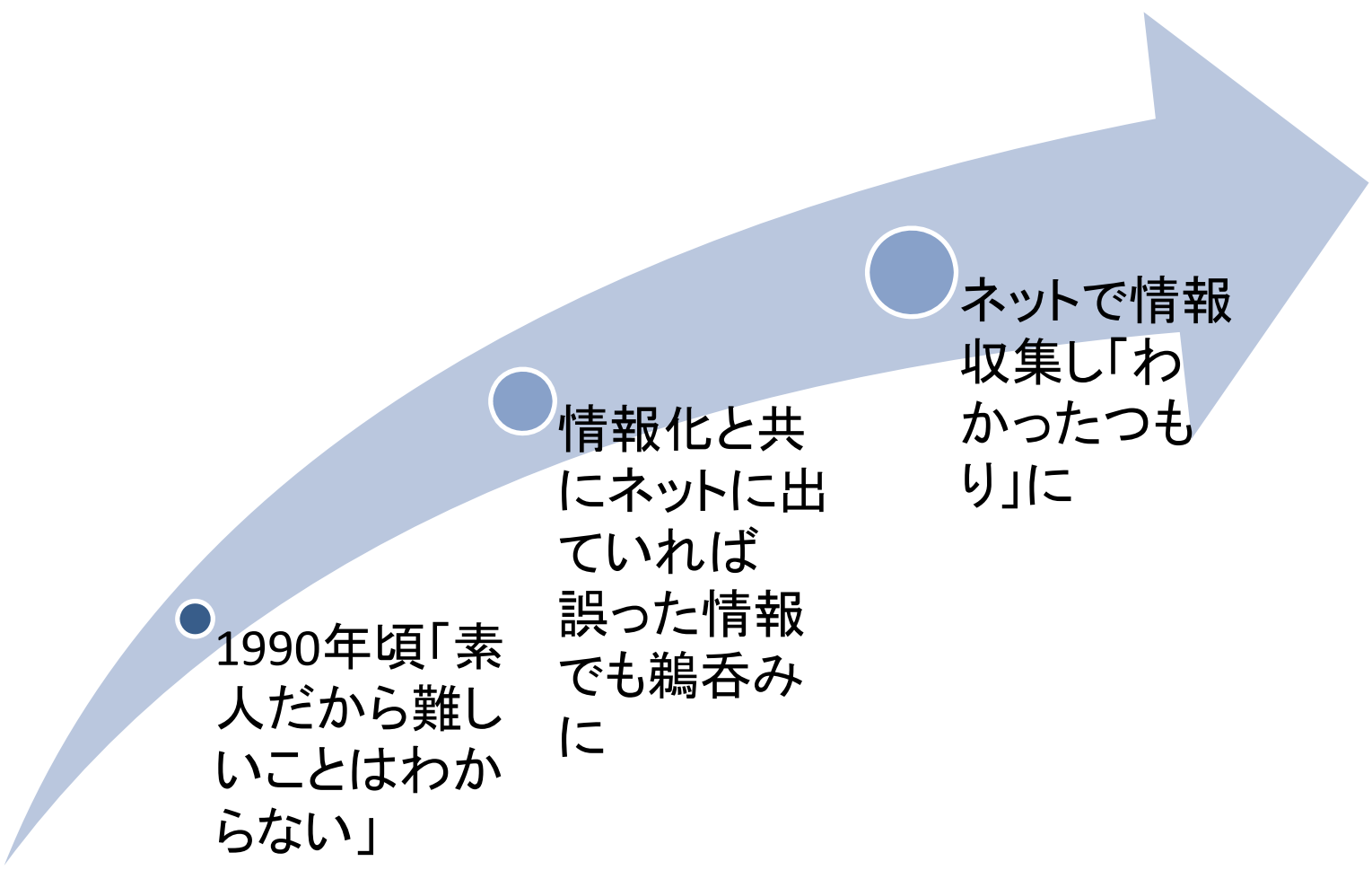
患者の課題②

患者と医療者の思いのズレ(その2)



患者の課題③

情報のリテラシー



1990年頃「素人だから難しいことはわからない」

情報化と共にネットに出ている情報は誤った情報でも鵜呑みに

ネットで情報を収集し「わかったつもり」に

患者の課題④ 医療者の態度・コミュニケーション

理由、根拠、目的を明確にしない

患者が口火を切らないと始まらない交渉

社会の常識と異なる医療現場の常識

課題の克服を阻害している要因

医療の制度、しくみ、情報、受診の仕方を学ぶ場がない

コミュニケーションが苦手な人が多い

日常の上級編・応用編が医療現場でのコミュニケーション

自己決定、自己主張を避ける傾向

医薬品のリスクコミュニケーション成立のためには、医療の限界と不確実性を冷静に受け止められる成熟した患者の増加が不可欠。

患者を取り巻く医療の課題

- 医療安全対策
- 医師不足
- 救急医療の危機
- 入院期間の短縮
- 病診連携

患者も原因・
現状を理解
する



“共に”医療のあり方を考える

時代の変化に伴う要求

- 医療者に主導権⇒患者と医療者の“協働”
- 地域医療への市民の声と参画
- 個人的な経験や意見⇒冷静・客観的な意見



**医療を理解して参加し
協働できる患者・市民の必要性**

医療をささえる市民養成講座

講座1	医療で活躍できる活動	講座の目的 COMLの基本姿勢と活動紹介 ボランティアとしての心得 各種ボランティアの紹介
講座2	医療の基本	医療の変遷(制度、できごと、患者の権利の発展) 医療機関や専門職の種類と役割 医療現場の課題 医療費の基本
講座3	医療相談の実際	COMLの相談対応の基本姿勢と実際 相談から見える患者の意識の変遷 相談対応に必要な情報と姿勢 相談内容の紹介
講座4	医療を知る I	病院選びと賢い患者の心構え セカンドオピニオン 医療費の知識
講座5	医療を知る II	医療にまつわる社会的な知識(納得できないときの解決方法、個人情報保護法、成年後見制度など) 薬にまつわる情報(治験、ジェネリック、医薬分業、副作用被害救済制度など)

1講座:3時間 9期開催中 約350名参加

変化し始めた患者・市民の意識

「医療にまつわる何かをしたい！」

お世話になった恩返しがしたい

もっと医療のことを知りたい、学びたい

同じ立場で患者さんの支援をしたい

外からの風を吹き込みたい



知識を得る 制度・しくみを知る 課題を学ぶ



さらに知りたい意欲

⇒協働できる冷静な患者・市民の増加

さらに成熟した患者へ

- 自分のからだ・病気への関心
- 医療者や医療現場への理解

深まる

私にできることは
何だろう……？

医療が個人的な問題から
社会的な問題へ

意識の変化